

## 第3回技術審判部会（報告）

- 1 期 日 平成24年12月2日（日）12:00～16:20
- 2 会 場 日本自転車競技連盟 会議室
- 3 参加者 折本・中村・猿舘・高畑・寺崎・河田・是永
- 4 内 容

### （1）報告事項

ア 2012全日本ステージロードレース（岩手）8月30日～9月2日 （河田）

- ・ステージレース審判として初めて参加した。COM2ドライバーを担当し、無線のやり取りや車の動きを学び良い勉強となった。
- ・クリテリウムは2.4kmの周回で行われ、審判車両はバイク審判のみであった。アクシデントとしてバイク審判と選手との接触事故があった。先頭集団、しかも有力選手であり、選手が審判に詰め寄る一面もあった。状況は選手団が道幅いっぱい広がりバイクは右側に避けていたが、選手が接触してしまった。選手にはレース中のかけひきや技量向上が望まれる。
- ・選手にとっては短い日程ではあったが、多くのレースを走る良い経験となるのではないかと。
- ・次年度の開催予定は2013年9月5日～8日が予定されている。審判技量の向上や経験にもなるので高体連からの審判派遣を継続要望したい。
- ・来年（2013年）はチーム参加以外にも個人参加できるようになる方向である。また、関係高体連委員長と岩県県から、主催に全国高体連を入れて欲しいとの要望があった。

⇒全国高体連の規程で、全国規模の大会主催は年2回となっており、現在はインターハイと選抜大会である。

イ 審判講習テキストの配付およびHPアップ（1992年版） （寺崎）

- ・内容は旧ルールの部分もあるが、図として説明されている箇所が多く、ルールが分かりやすく解説されている。
- ・選手の違反行為を指導する場面で、選手がルールを理解しないで大会に参加するケースが見受けられる。
- ・審判のみならず指導者や選手にとってもルールの説明をする上でこの冊子の活用は有効である。
- ・審判講習会用（パワーポイント）資料で利用できるものと合わせて提供できるデータとして作成したい。

⇒24年度内に素案をまとめる(寺崎)

ウ 2013年大分インターハイについて （折本）

- ①大会日程
- ②ケイリン勝ち上がり方法等について
- ③別表のタイム制限について

- ・上記①②および実施要項は事前配付済みの資料を参考としてもらいたい。基本的に総務事項であるが競技運営にかかる部分は技術審判部会で審議したい。
- ・タイム制限については、第2回技術審判部会報告として9月1日（高体連HP）にアップした。多くの関係者の理解を促すため、最終確認を本部会で行い修正等があれば議案として審議したい。

- ・2010年岸和田、本年は奈良で行われた。韓国選手団にとっては関空利用により1時間程度で会場に到着し、利便性は高い。大会運営は開催地近県高校の先生方の協力をいただき、数多くの創意工夫が盛り込まれた大会であった。
- ・例年、韓国選手団は中長距離に強いイメージがあったが、本年は短距離が強かった。特に大学生1kmでの1分05秒台は目を引いた。落車事故等もなく、大会運営は成功であった。
- ・違反状況 女子スプリント 警告2件 失格1件  
女子ポイント 警告3件  
男子ポイント 警告3件 失格1件
- ・ハングル文字フォントで苦労した。プログラム掲載等においてハングル文字が不要であれば助かる。

- ・高体連合宿はJCF事業であるジュニアトラックキャンプと併催される。この合宿からも有望選手が発掘され、J世界選手権代表選手が育った経緯もある。多くの内容が盛り込まれた合宿であり、強化育成部会が計画をしている。
- ・ルール講習に関して、強化育成部会から派遣の依頼を受け、本年度は高畑先生にお願いしたい。
- ・以前、この合宿は参加する引率者で運営されていたが、現在は強化育成部会が中心となりスタッフとして事業を進めている。
- ・期間 平成24年12月22日～26日 場所 伊豆ペロドローム
- ・内容
  - ①講習会実施 ルールの成り立ちおよび基本概念を講義形式(50分程度)  
その他 Q&A やケーススタディも盛り込む
  - ②ビデオ撮影および編集等
  - ③高体連ホームページへの掲載内容作成

- 視察日 平成25年1月7日(月)～8日(火)
- ・視察者の日程調整に時間がかかり、上記の日程で審判部会から折本が参加する。報告書を作成し、部会内の共通理解を図りたい。
  - ・ロードコースがほぼ確定し、1周12kmの周回コース、(アップダウンが厳しい)

- ・第1回全国選抜大会実行委員会(北九州市庁舎3階 31会議室)  
平成24年11月28日(水)
  - 1 会長あいさつ
  - 2 実行委員会委員の紹介
  - 3 報告事項 平成23年度報告書配付
  - 4 議題
    - (1) 役員の選任  
倉原副会長(退任)→寺崎副会長(就任) (承認)
    - (2) 平成23年度決算 (承認)  
収入額 16,883,117円  
支出額 15,788,467円

残 額 1,094,650 円 (平成 24 年度へ繰り越し)

(主な支出項目および金額)

設営費 7,300,430 円 役員旅費(宿泊弁当含む) 5,5630,188 円

印刷費 875,000 円

(3)平成 24 年度事業計画(案)(承認)

(4)平成 24 年度予算(案)(承認)

(5)その他 平成 25 年は北九州市制 50 年である。大会名に「北九州市制 50 周年記念事業」と付記したい。(承認)

・プログラム編成会議(北九州市)

平成 25 年 2 月 2 日(土)~3 日(日)

・大会日 平成 25 年 3 月 21 日(木)~24 日(日) ロード 24 日

ク その他

インカレ参加報告(高畑) 開催地(鹿児島)

・役員(九州が 1/3, 学連 13 名)

・学連方式に不慣れな役員もいたが、概ね順調であった。特に所轄警察署からは、絶大な協力をいただいた。また、地元鹿児島県自転車競技関係者の大会準備・運営に敬意を表する。

(2) 審議事項

ア 平成 24 年度全国選抜大会準備について

①プログラム編成会議(出欠の確認) 2 月 2 日(土)~3 日(日)

・是永(修学旅行下見のため欠席)それ以外の部会員は出席である。また、前日 1 日に技術審判部会(選抜大会関係)を開催して、プログラム編成会議の円滑な進行を目指したい。

・(電子データの流れ) 参加校 → 事務局長 → 是永先生 → 部会員で分担して、必要部数印刷して 2 月 1 日に持ち寄る。(詳細は後日連絡する)

②審判長(チーフコミセール)の推薦

- ・第 2 回審判部会時に一考を依頼した。
- ・主要ポジションの検討と、プロ編会議で審判長と合わせて決定承認する。
- ・ここ数年、事前準備から審判長(チーフ)の仕事量が相当増加しているのではないかと。
- ・高校生の大会なので、高体連から審判長は推薦していきたい。
- ・選抜大会が九州地区なので、西日本地域から推薦してはどうか。
- ・1 級審判員を養成していくことも急務である。

・部会からの推薦者 第 1 案 高畑(校務の都合で不可能な場合) → 寺崎

イ 2013 北部九州総体(大分インターハイ)について

①競技日程

- ・公開競技となる女子種目との関係で、競技日程の検討が必要である。
- ・大分実行委員会から提案された競技日程の素案を参考としてもらいたい。
- ・過密スケジュールによる競技役員への負担軽減は必要。真夏の長時間執務は健康上の問題のみならず、審判上のミスを誘発する。交代要員を準備するか休憩時間は必須である。

- ・チームパーシュートを20チームに制限すると約1時間短縮できるので、トラック初日にポイントレース予選を実施すると日程に余裕ができる。
- ・ロードレース翌日の中距離種目は選手に負担増であるが、当日の最終レースに持ってくれば軽減策になるのではないか。
- ・ロードレースにおいて、天候の影響（濃霧）によるスタート時刻の遅延は可能であるか、確認が必要である。

・最終的な日程は、出場選手数が確定しないと組めないが、実施要項に掲載する関係上、日ごとの実施種目は確定する必要がある。下記②、③と合わせて検討する。

### ②ケイリン勝ち上がり方法について

- ・岐阜国体と同様の形式を採用してはどうか、レース数は若干増えるが6～7名でレースを組む。6名での決勝や順位決定を実施することは国際大会を視野に入れた全国大会としては必要と考える。
- ・有力選手はチーム・スプリントも出場する可能性は高い。選手の健康上への配慮は必要ないであろうか。
- ・部会としては以下の改正案を提案していきたい。重要なことは関係する選手や顧問へ事前に周知をすることである。

53名エントリー（例）

(現行) 1回戦	7名×5組 2回戦	決勝8名		19レース
	6名×3組 敗者復活戦			

(改正案) 1回戦	7名×5組 2回戦	準決勝・決勝6名		22レース
	6名×3組 敗者復活戦	7～12位決定戦		

### ③別表についてのタイム制限について

- ・再度、部会で確認をして変更がなければ理事会へ提案する。部会員の思いや意見はそれぞれあるが、全国の立場、インターハイ開催を今後、継続していくといった視野に立って意見を伺いたい。
- ・部会では第2回部会で原案をまとめた。他の顧問からはチームパーシュートの4分45秒はタイムだけ比較すると急に上げ過ぎではないか、という意見がある。
- ・インターハイへの出場権は、6月に実施されるブロック大会で決まる地域間格差（東北と九州など）は検討材料に入れなくて良いのか。（入れて欲しい）
- ・大会全体の規模縮小、経費削減を検討する中で、参加制限はやむを得ない状況になっているが、その説明が充分でなく、急激なタイム制限は受け入れられないのではないか。段階を踏む必要があるのではないか。
- ・標準タイム見直しを2年サイクルで行う事も周知する。
- ・見直しは何回か行っている。しかし、平均タイムや上位30名（チーム）で検討する限り、結果的に変わらない。見直し結果どおりに行くと、逆に制限タイムを下げることになってしまう。
- ・強豪都道府県やチームは、選手が毎年入れ替わる高校スポーツでありながら固定化傾向と二極化は否めない。
- ・各ブロック配分を減じたいうえで、ワイルド・カード方式（設定タイムをクリアしたチームが出場権を得る）を設けるという考えもある。
- ・A案、B案の選択案を用意する。

- ・参加チーム数を 20 チームとして、そのチームを元に標準タイムを設定する。
- ・標準タイムを 4 分 47 秒 000 以内、当初の 4 分 45 秒以内を修正する。
- ・上記の記録は平成 24 年インターハイ 20 位相当。なお、ブロック大会の記録を精査したところ 24 チームがクリアをしている。
- ・団体種目のブロック出場制限（ブロック枠）は撤廃し、個人種目は出場制限（ブロック枠）とタイム制限の併用制を実施する。
- ・ブロック大会を実施するに当たり、競技規則の順守を再度、徹底をする。具体的には手動計時の場合は 3 名による計時員、コーナーラバーパットの使用、及び図面等による距離補正を行うことを付記する。これは都道府県大会予選会も同様である。別表タイム制限の見直しや算出式等も記載する。
- ・別表タイム制限
  - 1 km タイムトライアル
    - 1 分 12 秒 500 以内 → 1 分 12 秒 000 以内
  - 3 km インディヴィデュアル・パーシュート
    - 3 分 54 秒 000 以内 → 3 分 50 秒 000 以内
  - チーム・スプリント
    - 1 分 25 秒 800 以内 → 1 分 24 秒 000 以内

ウ その他 技術審判部会名称について

- ・本部会の名称は対外的に説明しにくいのではないか。他の専門部等にもある“総務”“審判”“強化”はイメージをつかみやすい。  
委嘱された執務内容に合わせて、適正な名称とするか、名称に合わせて執務を行うかでないか。

本来組織の形は 理事会 → 委員会 → 部会ではないか。

- ・部会名称を使うならば総務部会に対して競技部会という名称変更を提案する。

ウ 平成 24 年度技術審判部会総括（各委員より）

【テーマ】

- ・審判部会運営、大会参加（競技運営面）、事業実施（アンケート）、円滑な競技運営を目指して、技術の進歩やルール変更そして運用、その他（各部会員から）
- ・部会組織の目的、そして目標を立てて運営してきた。部会内も Cc メールが定着し、円滑な意見交換は出来たと思う。証の残る Cc メールは連絡事項ならまだしも、意見表明は大変勇気のいる、神経を使う作業であるが、趣旨説明や経緯の説明が省略され、会議は円滑であった。
- ・アンケート実施による回答は充分説得力ある意見であるが、事業実施に向けて担当者やスケジュールが立てられなかった。
- ・今後も他の部会との連携を取りながら、選手への還元をテーマに普及発展に努めていきたい。また、我々自身が研修を重ねるとともに次世代への継続的な育成計画も進めたい。
- ・それぞれ担当を決めて、業務を分担し責任を持たせて実施していきたいので今後も継続してはどうか。
- ・技術審判のメンバーは競技役員の主要ポストに付き全体の運営に関わっているので、これも継続に賛成。
- ・アンケートは集計した結果の活用が大切と思う。これをもっと前進させるべきではないか。

- ・アンケートの結果を今後の競技発展につながっていくことを考え、継続してアンケートを行う。
- ・アンケートをしてその後の発展が今ひとつであった。
- ・適正なタイムテーブルの策定。それには競技役員の技量も重要な要素を含む、本年インターハイで起きた周回打鐘ミスを個人の責任に転嫁することは簡単であるが、未然防止の対策が重要である。マニュアル作成も良案ではないか。
- ・年度途中のルール変更は反対である。
- ・多くの人に、審判資格を取ってほしい。
- ・ロードの競技運営で、審判の技量を上げていく必要がある。ステージレースの参加は技量を上げるのに好都合である。
- ・機材制限の議論やアンケートについて精力的に行うことができ、部会としての活動が充実していた。
- ・競技規則の改訂情報 → ブロック合宿時に講習会を行う。(関東ブロックで行った)
- ・機材制限についても議論を進めていくことが今後必要である。
- ・ステージレースは技量上がるので、ぜひ多くの人に経験してもらいたい。
- ・記録用紙が各大会でバラバラの状態である。レース後、即リザルトに反映できる様式が理想である。
- ・記録用紙の統一性をすることも大事、iPadなどの利用はどうか。
- ・審判業務に使用する機材の統一性。
- ・ビデオシステム、通信機器などの専門家に依頼をする。高体連で購入管理するのは、経費的に困難である。
- ・校務の関係で皆さんにご迷惑をおかけした。
- ・できるところは大会以外のところで協力した。
- ・メディアに関する情報発信、レースのビデオをとり、審判の教材や、選手への講習会に使用する。
- ・個人的にたくさん勉強させていただいた。
- ・UCI 的の競技運営に違和感を感じる。特にヘルメットカバーの装着の有無について、選手はもちろん、監督、観客の立場をふまえると装着した方がよい。
- ・高体連は独自にわかりやすい、運営を心がける

### (3) 連絡事項

次回の部会について                      平成25年2月1日(金) 14時～                      場所北九州市  
 プログラム編成会議 「提案資料の作成」 開始時刻および分担は後日、連絡をする。